

北の道先案内人

とがし遊魚がいく!

北の田舎侍、関東参上!

鮎温泉食の旅

ら寒い寒い冬が訪れます、どうか頑張って一日も早い復興をお祈り致します。

羽生吉沼も堪能!

「秋田屋遊魚」によって、若侍達を「へらの道」へ引きずり込もうという徹底した勧誘が功を奏してきた。そこで、「ますます楽しい釣りを」と、関東遠征を企画。竿春殿様のきよ志若と若君軍団の力添えを得て、秋田では味あうことの出来ない釣りをさせたいと考えたあげく初日「吉羽園」、二日目は「羽生吉沼」となった。

「ヤパンカップ」のビデオが放映され大盛り上がりとなる。当然黙って見てたわけもなく、酒豪国ナンパーの秋田侍たちは、「酒」を片手に「我が一志の釣技」に、さもさも自分達が試合をしているかのような気合いである。

吉羽園で大満足!

昨今、北の国では悪名高き商人「秋田屋遊魚」によって、若侍達を「へらの道」へ引きずり込もうという徹底した勧誘が功を奏してきた。そこで、「ますます楽しい釣りを」と、関東遠征を企画。竿春殿様のきよ志若と若君軍団の力添えを得て、秋田では味あうことの出来ない釣りをさせたいと考えたあげく初日「吉羽園」、二日目は「羽生吉沼」となった。

早朝4時頃、佐野サーピスエリア到着で朝食タイムをとり、「吉羽園」へはまだ薄暗いうちに到着すると、路上には車・車・車の行列に田舎侍もビックラこいちゃったよ! そこへ、関東へ転勤させました? きよ志会に修業に出した? 佐々木氏が竿春きよ志さん

と現れ、「この車は、ほとんどバス釣りにきてるんですよ」に、二度ビックリ。バス釣りの管理池なんて、日本一のバスフィールドを持つ八郎湯を始め、溜池という溜池にはバスが棲息している秋田の我らにとっては不思議でならない。そうこうしているうちに夜が明けて開門、いざ入場だ。水辺をのぞくと、我々を歓迎しているのか、モソッモソッとジャンボベラのご挨拶で、皆さんわくわくで眠気も一気に飛んでしまった。続々と車が入ってきて、アツという間に満車の大盛況。「ザ・遊魚池なみじゃん」なんて冗談を飛ばしている、萩野氏が本誌のレポーター

浅香氏と、また、きよ志会の飯田会長はじめとする軍団が勢揃い! 挨拶をかわしてさっそく釣り座へセツテングが済んだ所へ、竿春親方と竹馬さんが到着した。なにやら賑わい始めてきて秋田の侍も心和んできたようだ。皆さん思い思いの竿を出すやいなや、我が一番の若侍・萩原君の「竿」が超満月になり、釣り上げた本人も興奮気味のスーパージャンボに拍手喝采となった。この日は9時までが練習ラウンドで以後本線と決定される。

翌日の釣り場は「羽生吉沼」だ。団体の14番入場、検査機付きの釣り座が確保でき、まずは一安心。この日も、竿春親方と竹馬氏に親方の友人の染谷さんグループと早川浩雄兄貴&きよ志会のメンバーが同行される。こんな素晴らしいメンバーと釣りを出来るとは、なんて幸せな田舎侍でしょう。この釣り方は、木村の哲ちゃんに教わっており、皆さん万全態勢で挑むことができた。

秋田の根性侍は、眠いはずなのだが、吉羽園の強烈な引き味に酔い知れて、終了時間まで楽しく遊ばせてもらった。特に、きよ志会の皆さんと一志さんが我々の一人ひとりに適切なアドバイスやらシヨクとかで、和やかに初日を終えることができた。

放流べらは数少なかったが、平均600グラム前後の良型に全員が満足満足、ハッスルハッスルでした。心残りではあったが、帰りの事もあり13時に納竿した。

この日のお宿は、野田市の「大根子サンホテル」(何故?って、ちょうど団体が開催され近郊のホテルは満員のため)で、竿春親方のご馳走で大パーティーが開き、釣りに参加できなかった早川浩雄氏も駆けつけ、きよ志会のメンバーに一志さんグループと、本当に大パーティーでした。

天気の様子が二日間とも快晴にしてくれ感謝感謝(竿春雨乃宮清麻呂様とは偉い違いだね)。

そこへ突然、グラグラグラとホテルが大揺れ(中越地震)。恐ろしかったなあ。被災地の皆さん、これか

という訳で、今回は「湯・食」はお休みさせていただきます。今、当地秋田はキリタンボ鍋が美味しいよ。それに冬の使者(ハタハタ)のしよつぷる鍋が最高だ。



吉羽園のジャンボベラを釣って満足の秋田ご一行様。



記念の写真を撮りました(右端は筆者のとがし遊魚さん)



こちらも吉羽園。秋田では味わえない釣りを自慢の愛竿で堪能した。